

今号のテーマ

自然と共生する地域社会の形成

国の方針(北海道総合開発計画)

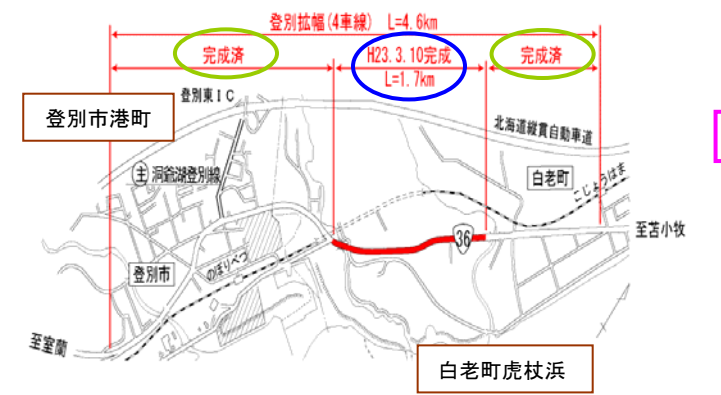
北海道総合開発計画では、主要施策の一つとして、「地球環境時代を先導し自然と共生する持続可能な地域社会の形成」を掲げ、①自然共生社会の形成、②循環型社会の形成、③低炭素社会の形成、などの取組を進めることとしています。

むろけんの任務

室蘭開発建設部では、環境に配慮した社会資本整備を行うほか、温室効果ガス対策の推進など、自然豊かな地域づくりに貢献しています。

一般国道36号登別拡幅事業では木の根や雑草を利用しています

白老町虎杖浜から登別市港町までの
 約4.6kmが2車線から4車線となりました
 平成23年3月10日、1.7km4車線供用開始！！



- 4車線化により・・・**
- 道路の見通しが良くなり安全になります！
 - 道路の混雑が緩和され交通が円滑になります！
 - 室蘭・白老・苫小牧港への相互アクセスが容易となり物流が効率化します！
 - 通勤、買い物、通院など、生活面での利便性が向上します！

工事で発生した木の根や雑草を使って、道路脇の斜面に緑を増やしました

1



木の根や雑草をチップにします

2



チップを発酵させ堆肥を作ります

3



堆肥を斜面に吹きかけます

草が生い茂った様子(平成22年7月)



温室効果ガスの排出量削減を目指しています

—苦小牧港における船舶版アイドリングストップ実証実験—

平成23年2月、苦小牧港において、国土交通省で推進している「港湾からの温室効果ガス排出量削減」の一環として、停泊中船舶への陸上からの電力供給についての実験が行われました。



実験に使用された太平洋フェリーの「きそ」



苦小牧港

西港区フェリーふ頭

どんな実験？

船舶は、停泊中でも乗組員が使用する照明・空調の運転や計器類の維持に必要な電力をまかなうためにエンジンを回し続け（アイドリング）、CO2を排出しています。

停泊中に必要な電力を陸上から船に供給し、エンジンを停止します。

苦小牧港西港区では、フェリー（11隻）が週40便就航しているの...

全国初の検討項目

- ①国内最大級フェリーを対象とした大容量の電力供給の課題の把握
- ②牽引トレーラーに受電盤等を搭載した可搬式の電力供給方法などの検討（船舶側の大きな改造を必要としない）
- ③周波数変換（50Hz→60Hz）による電力供給の安定性の確認
- ④積雪寒冷地における陸上電力供給システムの安定性とケーブル接続の作業性・安全性の確認

実用化すれば、
年間約2,000トン
のCO2排出量削減
が期待できます！

北海道開発局では、引き続きCO2削減等、地球環境への対応の一環として取り組んでいきます。

広域防災フロートを被災地の復興支援に活用しています

～東日本大震災・大船渡港及び相馬港にて～

●広域防災フロートとは？

平常時は、室蘭港において工事用台船として利用しますが、災害時には被災地へ曳航し、臨時係留施設として利用したり、住民避難や緊急物資輸送、臨時ヘリポートなど、復旧活動等の支援施設として活用します。（平成22年7月に国有化され、当部の所管となりました。）



大船渡港での積み下ろし状況

●被災港における支援活動

広域防災フロートは、燃料油約16万リットル、その他日用品・食品等を積み込み3月22日に室蘭港を出港、岩手県大船渡港及び福島県相馬港に寄港し支援物資を被災地に届けました。4月1日現在、相馬港にて臨時係留施設として機能しています。

～編集にあたって～

「むろけんRUN」の今回のテーマは「自然と共生する地域社会の形成」です。地球規模での環境問題が深刻化し、国民の自然に対するニーズが多様化している中で、北海道の豊かな自然を維持し向上していくことが私たちの生活にとっても重要だと考えています。

*今回は胆振版です。次回、日高版を発行する予定です。

【発行・編集責任者】

北海道開発局室蘭開発建設部

広報官 0143-25-7051

地域振興対策官 0143-25-7053

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14

<室蘭開発建設部ホームページ>

→<http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/>